

記録

関西学院大学大学院社会学研究科 大学院 GP

「社会の幸福に資するソーシャル・リサーチ教育——ソシオリテラシーの涵養」

大学院生・研究員による研究活動（2008年11月～2009年6月）

2008年11月に開始して以来、本大学院 GP ではさまざまな取り組みが実施されてきた。ここではそのなかでも、大学院生・研究員が企画段階からかかわって開催された海外セミナーやフォーラム、および共同研究班による研究会の活動記録を掲載する。¹

本大学院 GP 全体趣旨およびそのもとで実施されている各々のプログラムの詳細に関しては、以下 URL より web サイトをごらんいただきたい。

<http://www-soc.kwansei.ac.jp/kgu-gp/>

2008年度

■ 2009年1月14日

国際プログラム「計量社会学セミナー」第1回ワークショップ

於 関西学院大学

報告者：

ミリゲンドラ・カルキ（ネパール・トリブバン大学 CNAS）

■ 2009年2月18日

社会学研究科研究・調査成果発表会

於 関西学院大学

報告者：

- 稲津 秀樹「〈転移〉する空間の管理者—日系ペルー人の「監視の経験」のリアリティにみる」
- 宋 奉虎「対案運動から見る宗教とインターネット—インターネットの宗教関連サイトを中心に」
- 崔 海仙「ジレンマと発展志向による第三アイデンティティの可能性—脱延辺と都市化によって形成した北京朝鮮族社会を中心に」
- 林 梅「現代中国社会における少数民族像の再考—中国朝鮮族自治州の事例から」
- 吹上 裕樹「シンボルとしての「巨匠」—名演奏家時代のクラシック音楽聴取」
- 西牟田 真希「炭鉱の映像制作と保存—三池炭鉱の映像制作者への聞き取りと考察から」
- 雪村 まゆみ「戦時期における他者像とアニメーション—日仏比較の視点から」
- 木原 弘恵「地域生活と文化の継承をめぐる実践—岡山県笠岡市白石島の白石踊の事例から」

1 報告者等の所属・職名はすべて各研究会等の開催時のもの。肩書きなしは、関西学院大学大学院社会学研究科在籍の博士課程大学院生、同研究員、および先端社会研究所研究員。

佐野 市佳 『『肉用牛農家』の生活の組み立て—人間と動物が織りなす関係の一考察』

谷村 要 『『趣都化』を生む現実—仮想間の再帰的構造—埼玉県鷲宮町を事例として』

コメンテーター：

岩佐 将志、白波瀬 達也、竹中 克久、中川 千草、前田 拓也、山北 輝裕

■ 2009年2月23日

共同研究「東アジアのストリートの現在」第1回研究会

「映像をみる／まなぶ／とる」

於 関西学院大学

報告者：

櫻田 和也 (NPO 法人 remo スタッフ) 「メディアとしてのドキュメント」

原口 剛 (日本学術振興会特別研究員／神戸大学大学院) 「公共空間のドキュメント」

* 共同研究代表：稲津 秀樹、山北 輝裕 (以下同じ)

■ 2009年3月4-11日

「第1回 計量社会学セミナー」(ネパール・トリブバン大学 CNAS との共催)

於 ヒマラヤホテル (ネパール・カトマンズ市)

■ 2009年3月11-17日

「第1回 日中若手研究者フォーラム (中国・北京師範大学民俗学国家重点学科との共催)」

於 北京師範大学 (中華人民共和国・北京市)

報告者：

木原 弘恵 「A Community's Practice of Conserving a Cultural Treasure」

傲 登 「Inner Mongolia issue of desertification and people's livelihood」

林 梅 「History and living environment of Jilincun」

稲津 秀樹 「Toward Sociological fieldwork on Immigration and Surveillance: With a focus on daily lives of newcomer laborers from Latin America in Japan」

崔 海仙 「The Third Possibility of Urban Korean: in Beijing identity transformation of Korean Chinese」

中川 千草 「Japanese youth living life-world beyond music activities」

荒木 康代 「An Examination of Wives of Merchant Families: transition from managers to housewives」

谷村 要 「The Spread of Media Expression Activities by Internet Users」

山北 輝裕 「Homeless People in Japan/Street Community/Participant Observation」

山本 早苗 「Ceremonial National Development and Mentality of Folk Society in Global Age: A case study concerning project of construction of terrace paddies in Gansu province」

(以上、関西学院大学社会学研究科)

張 勃 (Zhang Bo) 「On the Visual Angle of look-up in Folklore Study」

吳 麗平 (Wu Liping) 「Partita of Block Living Space: Historical Recollection and Modern Reconstruction of Dongsi Block of Dongcheng District Beijing」

周 錦章 (Zhou Jinzhang) 「Beijing Dadetong Draft Bank: A Fieldwork Survey in Qianmen District」

唐 超 (Tang Chao) 「The Ethnography of the Traditional Handmade Papermaking Workshops in Baizhi Fang, Xuanwu District, Beijing」

梁 自玉 (Liang Ziyu) 「Research of Cultural Change and Tourism Development: A Case Study On Fenghuang County Hunan Province West」

孟 凡行 (Meng Fanhang) 「The Structure and Changes of Traditional Folk Implements: A Case Study on Traditional Folk Implements of ChangJiaoMiao In LiuZhi County GuiZhou Province」

馮 彤 (Feng Tong) 「Fabrication Process of “Washi”(Japanese paper)」

(以上、北京師範大学民俗学国家重点学科)

■ 2009年3月25日

共同研究「東アジアのストリートの現在」第2回研究会

「東アジアの現在」

於 関西学院大学

報告者：

全 弘奎 (大阪市立大学都市研究プラザ准教授)

「社会的な不利地域におけるコミュニティ福祉システムの創生—東アジアの経験から学ぶ」

2009年度

■ 2009年4月25日

共同研究「東アジアのストリートの現在」第3回研究会

「ストリート・ヴァンダリズム・参与観察」

於 大阪梅田キャンパス K.G. ハブスクエア大阪：1408号室

報告者：

飯田 豊 (福山大学人間文化学部メディア情報文化学科専任講師)、南後由和氏 (東京大学大学院情報学環助教)

「グラフィティのフィールドワーカー—都市論とメディア論からの接近」

打越 正行 (社会理論・動態研究所)

「沖縄の暴走族とヤンキーの意味世界」

新谷 周平 (千葉大学教育学部准教授)

「社会の観察と関与へ—そのなかで質的調査が占める位置と限界」

コメンテーター：

鶴飼 正樹 (京都文教大学人間学部文化人類学科助教授)

■ 2009年6月6日

共同研究「東アジアのストリートの現在」第4回研究会

「ストリート理論」

於 関西学院大学

報告者：

森田 良成（大阪大学大学院人間科学研究科）

「ストリートを／で議論していくために—『ストリートの人類学』についての覚書」

■ 2009年6月20日

共同研究「東アジアのストリートの現在」第5回研究会

「〈ストリート〉をめぐるエスニシティ研究の可能性—社会学と人類学の対話」

於 関西学院大学

報告者：

稲津 秀樹（関西学院大学大学院社会学研究科）

「〈ストリート〉をめぐるエスニシティ研究へむけた一考察—空間的資源の交換過程としての〈民族まつり〉を事例として」

岩館 豊（一橋大学大学院社会学研究科）

「『集会的なるもの』の構造と論理についての経験的研究」

野上 恵美（神戸大学大学院国際文化学研究科）

「『多文化共生』の中の在日ベトナム人—マイノリティの生活世界」

永田 貴聖（立命館大学衣笠総合研究機構ポスドクトラルフェロー）

「人類学者が移民と出会う場は『ストリート』なのか？—在日フィリピン人移民研究からの視点」

久保 忠行（神戸大学大学院国際文化学研究科／日本学術振興会）

「難民キャンプのなかの『エスニシティ』」

コメンテーター：

谷 富夫（大阪市立大学文学研究科教授）

東 賢太朗（宮崎公立大学人文学部専任講師）

■ 2009年6月28日

共同研究「〈承認〉の社会学的再構築」第1回研究会

「〈承認〉のフロンティア研究会—新自由主義時代における〈承認〉を考える」

於 関西学院大学

報告者：

塩原 良和（慶應義塾大学法学部准教授）

「ネオリベラル多文化主義と変容する『選別／排除』の境界」

*共同研究代表： 吹上 裕樹、平田 誠一郎